

英語科学習指導案

学習者 1年A組

指導者 丸田 仁

1 単 元 自分のお気に入りの写真や絵を、メールで説明する (Lesson 8 School Life in the USA, *New Crown English Series 1*)

2 単元設定の理由

本単元では、アメリカの中学校生活について学習する。また、アメリカの授業や課外活動について、写真付きの説明文やメール、対話文を読む中で、現在進行形の用法を学ぶ。習慣的、恒常的な事実を述べる現在形だけでなく、現在のことを眼前にあるように述べる現在進行形を学習することで、生き生きとした描写をおこなうことができる。現在進行形のこの機能を活用させることにより、単元を通して、冬休みのレポート課題として学習者が準備した写真や絵を、メールで魅力的に外国人や友だちに説明することができる力をつけていきたい。

本学級の学習者は、これまで2～3レッスン毎に行われるパフォーマンステストに向けて、様々な表現活動に取り組んできた。1年終了時の目標に即興性を掲げているため、「聞くこと」・「話すこと」の技能統合型の活動に力を入れ、特にディクテーションやディクトグロス、レポートイング、質問作成活動、Q&Aに取り組んできた。その結果、英語での意見交流を活発に行うことができる。しかし一方で、アンケートの結果から「書くこと」に抵抗を感じる学習者が多い。定期テスト等での、自由度の高い英作文が苦手なようである。その理由として多かったのが、①「何を書けばいいかわからない」、②「思っていることが英語にできない」、③「スペリングが不安」ということであり、学習者の多くは、まとまりのある英文を正確に書くことに難しさを感じている。

指導においては、単元の最後にALTに向けて写真の紹介メールを送信するという目標（→パフォーマンステスト）に向けて、1時間毎にその目標に迫ることができるよう、単元を貫いた指導を行う。授業の導入では英語で書かれたメールの紹介を行い、帯活動ではピクチャーディスクリビングに取り組ませる。学習者が得意な、話す・聞く活動でモチベーションを維持しながら、書く活動にも積極的に取り組ませる。この時、話す・聞く活動が書く活動（リライトを含む）につながったと学習者に実感させたい。そのための工夫として、QAチャートというオリジナルの思考ツールを活用する。これによりブレインストーミングのような効果も期待できるため、上記の課題①の解決にもつながると考える。また、各活動の最後に「言いたかったけど英語で言えなかったこと」を共有することで、課題②の克服を図る。課題③については、小テストの実施と家庭学習のアドバイスで改善をねらう。さらに、教師によるフィードバックを効果的に行い、英語表現の正確性への意識やメタ認知力の高い自律的学習者へと育てていきたい。

3 学校研究<「問い」の工夫>について

<「問い」の工夫Ⅰ（めあて・課題を学習者に届けるための手立て・プロセス）>

パフォーマンステストを単元のゴールに設定している。単元の最後にパフォーマンステストを行うことを早期に伝えることで、生徒たちは必要な技能・スキルを意識して主体的に学習に取り組むことができる。

<「問い」の工夫Ⅱ（深い学びに迫るための手立て・プロセス）>

QAチャートというオリジナルの思考ツールを活用し、原稿を自ら改善する力へとつなげる。また、「誰に対して書くのか」という発問を出すタイミングを工夫することで、相手意識を再確認させる。これらによって学習者のメタ認知力を高め、自律的学習者へと育てたい。

4 単元の目標

- (1) 写真や絵を、読み手にとってわかりやすい構成と現在進行形を含む適切な表現を用いて、メールで説明することができる。 【外国語表現の能力】
- (2) 相手に伝わりやすいように構成や表現等を工夫して書こうとしている。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- (3) 現在進行形の形、意味、働き（機能）を理解している。 【言語や文化についての知識・理解】

5 単元の評価規準

ア	イ	ウ	エ
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
自分の言いたいことが相手に伝わるように、構成や表現等を工夫して書こうとしている。	写真や絵を、読み手にとってわかりやすい構成（抽象→具体→自分の思い）と現在進行形を含む適切な表現を用いて、メールで説明することができる。		現在形と現在進行形の形、意味、働き（機能）に関する知識を身につけている。

6 単元の指導計画と評価計画（総時間10時間）

時数	各時の目標と学習活動		評価規準
1	目標	小学校の時のALTの先生に、附属中学校での授業について伝えるメールを作成することを通して、単元の目標を理解する	
	学習内容	動詞の現在形を活用して中学校の授業について表現させる活動を通して、本単元の学習内容とゴールを意識させる	
2	目標	アメリカの学校の授業（language arts）と現在進行形について理解する	エ
	学習内容	現在進行形の表現を学び、練習する（本文Get1）	
3	目標	絵の内容を説明できる	エ
	学習内容	教科書の本文を参考に、人物が描かれたイラスト（英検3級の面接試験用）を英語で説明する	
4	目標	PaulとKumiの対話からPaulのいところについて理解する活動を通して、現在進行形の疑問文と否定文を理解する	エ
	学習内容	現在進行形の疑問文と否定文の構造を理解し、練習する（本文Get2）	
5	目標	絵の内容について、Q&Aを行うことができる	エ
	学習内容	教科書の本文を参考に、人物が描かれたイラストについて、英語でQ&Aを行う	
6	目標	対話を聞いてわかったことを、友だちに英語で伝えることができる（レポーティング活動）	エ
	学習内容	教科書の本文や絵についての対話文（ダイアログ）をモノログに書きかえる	
7	目標	自分のお気に入りの写真や絵（人物が含まれているもの）を、英語で説明するための原稿を作成する	ア
	学習内容	「抽象→具体→自分の思い」という流れで、自分のお気に入りの写真や絵を説明する原稿を作成する	
8 (本時)	目標	写真や絵の説明を行い、それについてのやり取りとフィードバックを通して、自分の説明内容と英語表現について再考し、改善する	ア
	学習内容	写真や絵を説明し、その後QAチャートを用いてやり取りを行い、内容を改善する	
9	目標	リサのメールの内容と英語のメールの書き方を理解する	
	学習内容	リサのメールの内容を読解し、文章構成とメールの書き方を学ぶ(USE Read)	
10	目標	自分のお気に入りの写真や絵をメールでMathieuに伝えることができる	イ
	学習内容	本文(USE Read)を参考に、パソコンを使って自分のお気に入りの写真や絵についてメールを作成し、送信する（パフォーマンステスト）	

7 本時案

(1) 題目 自分の気に入りの写真や絵を友だちに説明し、その後のやりとりを経て原稿を改善しよう

(2) ねらい 写真や絵の説明について、発表後のやりとりとフィードバックを通して、聞き手（読み手）の視点から自分の原稿を見つめ直し、内容と英語表現について再考し、改善することができる。

(3) 展開

学習活動	教師の指導・支援	時間	備考・評価
<p>1 本時の流れを確認する。</p> <p>2 ピクチャーディスクリプションを行う。(帯活動)</p>	<p>○メールを見せて導入を行い、その後本時の流れを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクリーンに ALT から送られてきたメールを写し、内容について考えさせる。 <p>○絵を説明させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアの一人がスクリーンの絵を説明し、パートナーにあいづち、リキャスト、Q&Aをさせながら、絵の内容を推測させる。 ・「言いたかったけど英語で言えなかったこと」を共有する。 	<p>3</p> <p>7</p>	<p>・ iPad</p>
<p>3 発表会を行う。</p> <p>(1) 準備をする。(1分)</p> <p>(2) 順番に発表する。(4分×4人)</p> <p>①発表 (30秒)</p> <p>②QAチャート記入 (1分)</p> <p>③やり取り (1分)</p> <p>④まとめタイム (30秒)</p> <p>※①～④を繰り返す。</p> <p>(3) フリーチャットをする。(1分)</p> <p>(4) 1人の発表を全員で共有する。</p> <p>4 発表内容を改善する。</p> <p>(1) 代表者の原稿の改善点について考え、意見を発表する。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>めあて：写真や絵の説明を行い、それについてのQ&Aを通して、自分の説明内容と表現について再考し、改善しよう。</p> </div> <p>○4人グループで、写真や絵の説明をし合い、その後のやり取りを通して、説明内容と英語表現について再考させる。</p> <p>○リハーサルをさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○QAチャートの使い方について確認する。</p> <p>○グループ内で順番に発表させる。</p> <p>①発表中は聞き手にメモをさせずに、話し手や写真に注目させる。</p> <p>②発表を聞いてわかったことをU (Understood) の部分に、疑問に思ったことをQ (Question) の部分に記入させる。</p> <p>③Q&Aをさせる。</p> <p>④やり取りでわかったことをL (learned) の部分に記入させ、さらに「言いたかったけど英語で言えなかったこと」を書かせる。</p> </div> <p>○4人の発表のよかったところをほめ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語で言わせる。 <p>○①～④の流れを全員で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者は挙手で決める。 <p>○原稿の改善点について考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの使い方を説明する。 <p>○板書 (QAチャート) を見せながら、代表者の原稿にアドバイスをさせる。</p>	<p>20</p> <p>5</p> <p>10</p>	<p>・ QAチャート <「問い」の工夫Ⅱ></p>

<p>(2) 自分の原稿を改善する。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>発問: Mathieuが読むという視点で、もう一度考えてみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・考えを発表させる。 <p>○グループのメンバーが書いたQAチャートを見ながら、自分の原稿の改善点について考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・QAチャートは発表者に渡させる。 ・自分の原稿とQAチャートを見ながら、ワークシートにまとめさせる。 		<p><「問い」の工夫Ⅱ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート <p>○自分の言いたいことが相手に伝わるように、構成や表現等を工夫して書こうとしている。</p>
<p>5 振り返りを行う</p> <p>(1) 本時の活動を振り返る。</p> <p>(2) 教師のフィードバックを聞く。</p>	<p>○数名の生徒に発表させる。</p> <p>○説明の良かったところ、改善点を伝え、興味深い意見について言及する。</p>	5	

8 評価について

単元の評価規準	観点	十分満足 (A)	おおむね満足 (B)	努力を要する生徒への手立て	評価方法
自分の言いたいことが相手に伝わるように、構成や表現等を工夫して書こうとしている。	関心・意欲・態度	読み手のことを考えて、ワークシートやQAチャートを活用して原稿を改善している。	ワークシートやQAチャートを活用して原稿を工夫しようとしている。	授業中に困っていれば声をかけ、必要ならばアドバイスをする。	観察・QAチャート ワークシート
写真や絵を、読み手にとってわかりやすい構成と適切な表現を用いて、メールで説明することができる。	表現	『抽象→具体→自分の思い』という展開で、かつ適切な表現を用いて7文以上で説明している。	『抽象→具体』という流れで、少しスペリングのミスや文法上の誤りはあるものの、5文以上で説明している。	教科書の本文を参考にしながら、英文を作らせる。	パフォーマンステスト
現在形・現在進行形の用法に関する知識を身につけている。	知識・技能	文の構造を理解して、適切に表現することができる。	文の構造を理解しているが、スペリングのミス等がある。	具体的に家庭学習のアドバイスをし、小テストを数回行う。	定期テスト シート・小テスト

「自分のお気に入りの写真や絵を、メールで説明する」

①単元の目標は何か（資質・能力）

写真や絵を、読み手にとってわかりやすい構成と現在進行形を含む適切な表現を用いて、メールで説明することができる。

学習指導要領「書くことーイ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。

④問題意識を持たせるために、どのような導入を図るか（③を届けるために）

- ・「自分のお気に入りの写真や絵を、メールで Mathieu に伝える」というパフォーマンステスト（1月末）の内容については、前単元の学習期間内（12月中旬）に生徒に告知しておき、単元のつながりを意識させる。
- ・自分のお気に入りの写真や絵は、冬休み中に準備させる。
- ・単元の最初の授業で、英語で書かれたメールにふれさせ、さらに実際に書かせることで、単元のゴールを理解させる。

「問い」の工夫Ⅰ

単元の最後にパフォーマンステストを行うことを早期に伝えることで、生徒たちは必要な技能・スキルを意識して主体的に学習に取り組むことができる。

⑥使える資料は何か。どこで使うか。

- 教科書教材
- ・「Lesson 8 School Life in the USA」
 - ・英検3級用教材

③どのようなめあて、課題にするか（各教科の見方・考え方が働くもの）

自分のお気に入りの写真や絵を、メールで Mathieu に説明しよう

「問い」の工夫Ⅱ

- ①話す活動後に思考ツールを活用し、原稿を自ら改善する力へとつなげる。
- ②「誰に対して書くのか」という発問を出すタイミングを工夫することで、相手意識を再確認させる。

⑤どんな追及活動を行わせるか（言語活動含む）

- ・授業の導入ではメールを紹介し、毎時間ゴールを意識させる。
- ・帯活動ではピクチャーディスクリビングを行い、写真や絵を紹介させることに慣れさせる。
- ・話す活動を行う際は思考ツールを活用し、話す活動が書くことの改善につながったという実感を持たせる。また、誰に対して書くのかということ意識させることで、相手意識の醸成を図る。

②単元の最後に理解させたいこと、発言させたいことは何か（単元のゴール+振り返りの視点）

- ・話す活動後に内容について整理し振り返ることが、まとまりのある文章を書くことにつながる。
- ・相手によって、書くべき内容が変わる。
- ・何かを説明するとき、現在形と現在進行形は不可欠である。

【予想される振り返り】

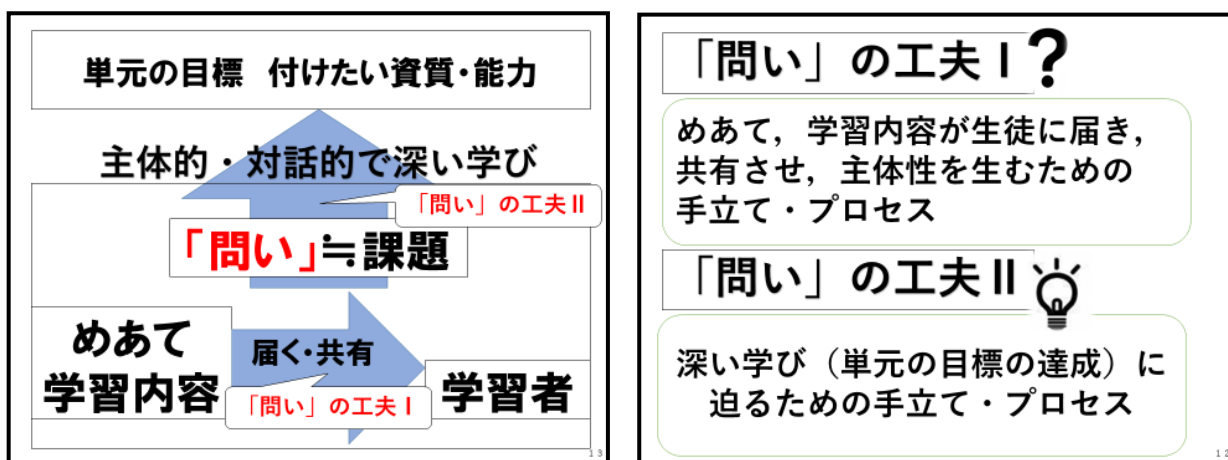
- ・QAチャート（思考ツール）により、自分のメールの内容（原稿）がよくなったと思う。「誰に対して書くか」が大切だと感じた。

⑦まとめの表現活動をどうするか

メールを送信し、返信をもらう。（全体で）

研究テーマ「深い学びを実現させる『問い』の工夫」について

本校は昨年度、「主体的・対話的で深い学びを生み出す単元構想」をテーマに授業実践を行ってきました。その取組の中で深い学びを実現させるためには、学習者が「めあて・課題」を自分ごととして捉えることが必要だと強く感じました。そこで、今年度は「深い学びを実現させる『問い』の工夫」をテーマに、学習者にめあてや課題を引き受けさせ、追究する手立てやプロセスの工夫を研究しています。



- 「問い」
＝学習者が主体的に抱いた疑問(「なぜだろう?」「どうしたらいいのだろうか?」)
＝めあて, 学習内容が共有された状態(解決するために何をどのようにしていくか)
- 「問いの工夫」
＝「問い」を生み出し, 追究させる手立て・プロセス
(適切な資料提示, 発問, 学習計画立案, 試行錯誤の場 etc)
- 「問いの工夫Ⅰ」
＝めあて, 課題を生徒に届け, 共有させ, 主体性を生むための手立て・プロセス
- 「問いの工夫Ⅱ」
＝深い学び(単元の目標の達成)に迫るための手立て・プロセス

本日の英語の授業で、本校の研究内容がどのように実践されているかご覧いただき、事後研やアンケートでご意見をいただけたら幸いです。よろしくお願いいたします。